

平成31年1月31日
琉球大学学長選考会議

国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認について

琉球大学学長選考会議は、国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認に関する申合せ（平成30年6月14日学長選考会議決定）に基づき、平成30年9月27日に、大城肇学長の業務執行状況の確認を実施した。確認は、大城肇学長による業務執行状況の説明及び選考会議委員からの質疑により行われた。資料は、大城肇学長が作成した業務報告書を参照した。

大城肇学長の業務執行状況の確認結果は、以下のとおりである。

記

大城学長は、「琉大創生プラン」、「琉大共創プラン」という明確なビジョンを提示し、平成25年4月の就任以降、優れたリーダーシップを発揮し、その実現に取り組んできた。

平成29年4月の再任に先立ち提示された「琉大共創プラン」においては、「いきいきと個が輝く大学」をキャッチフレーズとし、「経営基盤強化」、「教育改革」、「研究推進」、「地域貢献」、「国際連携」、「国際医療拠点形成」、「職場環境改善」の7つを主要施策に掲げ、その実現のために数多くの改革に着手するとともに、特に国際連携や地域連携を積極的に推進し、琉球大学の国内外における存在感を高めている。

また、人文社会系学部の改組による人文社会学部、国際地域創造学部の設置や、上原地区キャンパスの西普天間地区への移転を推進したことは、本学のみならず、沖縄県における教育・研究及び地域医療の発展に大きく寄与することであり、高く評価される。

以上のことから、大城学長は、平成25年4月の就任から現在に至るまで、その業務を適切に執行していることが認められる。

以上

【学長選考会議における主な所見】

- ・組織のリーダーには、ビジョンを示して共有し、実現のためのロードマップを策定し、それらを従来の方法等にとらわれずに実現していくことが強く求められるところ、それらを着実に実践されたことは高く評価されるべきものと考え。併せて、それらの実践を通じて、学内プロジェクト研究が科学研究費基盤研究 S の獲得に繋がり、COC/COC+等の大型補助事業に採択され、いくつかの教育研究組織が改組されるなど、具体的な成果が示されたことも高く評価されるべきものと考え。
- ・地域との連携と医学部・附属病院の移転再開発事業が、関係機関との綿密な連絡調整の下、着実に進展したことは特筆されるべき成果と考える。
- ・運営費交付金の削減等の制約の中でも、様々な改革を実行し、地域や世界における琉球大学の存在感を高めたことについて、高く評価する。
- ・大城学長が就任してから、琉球大学を他大学と比較して見ても、この数年間に非常に改革が行われたのではないかと感じる。学外の関係者からの、琉球大学に対する評価も高まっていると感じる。また、内閣府の沖縄振興においても、琉球大学は、様々な事業でイニシアチブをとっている。新しい学長のスタイル、まさにリーダーシップを学内でとると同時に、外部でもリーダーシップを発揮している。
- ・琉球大学の経営協議会の委員に中小企業同友会のメンバーを加え、一緒になって議論する場を作られたことは、地域貢献大学として重要な取組であると思う。
- ・国際連携を積極的に推進しており、その成果が上がりつつある。
- ・地域貢献については、様々なアイデアを打ち出し実施しているが、さらに推進していくことを期待する。
- ・この6年間で、琉球大学は、人文社会系学部の改組など組織の整備も含めて、前進しつつあると実感している。
- ・本学におけるIR体制を構築し、これが学内で評価されてきている。
- ・大城学長の様々な工夫や実施した事業について、もっと広報を行うことを期待する。